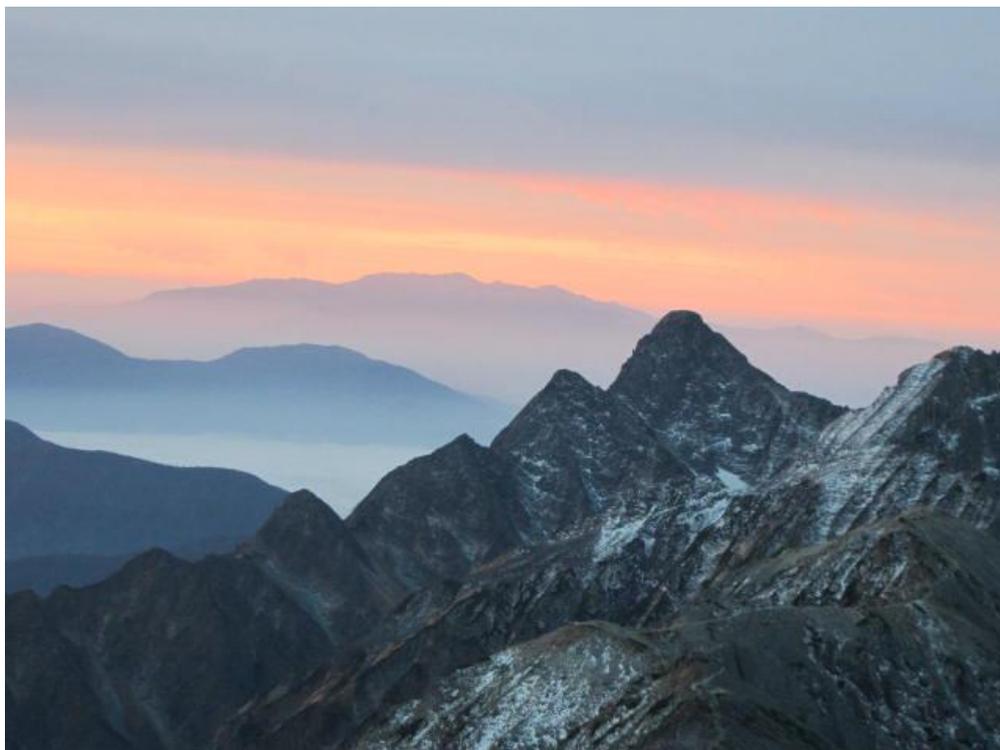


山岳友の会会報

2015年11月 第19号



槍ヶ岳からの前穂高岳と徳本峠からの明神岳

もくじ

第22回現地研修会「ささら越えの針ノ木峠」	
報告 渡邊修	2
第23回現地研修会「秋の味覚を堪能する会」	
報告1 島村芳太郎	8
報告2 竹重聡	9
徳本峠の道普請 実施報告 小林久雄	10

第22回現地研修会「ささら越えの針ノ木峠」報告

暑さ寒さも彼岸までの言葉どおり野山もにわかには秋色をおび、日毎に秋の深まりが感じられるようになった9月26～27日、長野県大町市と富山県中新川郡立山町に跨る針ノ木岳(2,821m)、蓮華岳(2,799m)登山が12名の参加者により行われました。



1日目

針ノ木岳は中部山岳国立公園内にあり、後立山連峰の最南端の山で、ピラミッド型の端正な山容をしており、日本二百名山、新・花の百名山。一方、蓮華岳(別称は烏帽子岳、北針ノ木岳)は針ノ木峠を挟んで針ノ木岳の東側に対峙する日本で66番目に高い山。円錐形のどっしりした山容で日本三百名山。山頂の西には若一王子神社の奥宮があります。

今回の参加者で最高齢者は栃木県から参加された齊藤さん、御年79才！来年は傘寿！一度山頂目指し登り始めれば年齢を感じさせない、軽やかな足取りで一步一步確実に針ノ木小屋を目指して進みます。8月末に白山に登った際、地道に一步一步確実にそして決して広いとは言えないストライドで休憩もそこそこにひたすら山頂を目指す岡山の大江さんとよく似ています。

齊藤さん曰く「山登りは60才から始めた！」とのことですが、話しを聞くと国内の山は基より海外の著名な山も数座登頂されたとのこと、その健脚は海外登山を含め経験に裏打ちされたものでした。(小生が25年後の同じ年で果たしてこの山に登れるのかと考えると…！考えるのは止めよう！)

予定では8時に扇沢のバスターミナルに集合、8時30分出発予定。

週間天気予報では残念ながら26～27日の週末は雨予報！降水確率もかなり高い。小生の今年度参加の山行は7月の潤沢、8月の白山ともに合羽のお世話になったことから…まさかの3連敗？嫌な予感が頭を過ぎる！「あ～あっ！残念ながら今回も合羽のお世話になっての登山か？汗で蒸れるし最悪だな！唯一の楽しみは山小屋での宴だ。」と半ば諦めていたのですが…！24日(木)の午後から前倒しで降り出してくれた雨(慈雨?)のお陰で当日はなんと爽やかな登山日和となりました。いやはや！これはこれは嬉しい誤算！友の会会員の日頃の品行方正(ひんこうほうせい)に感謝！感謝！

松本を5時20分に出発、早朝で車も少なく順調に来たので6時30分扇沢の無料駐車場に到着。間もなくして梶澤、竹原さんも到着。教授達も既に到着しているようでした。早速、痙攣防止のため、水分、塩分を補給しウォーミングアップジェルで入念にマッサージを施し、昨年度「清水の舞台から飛び降りる気持ち」で購入した速乾性の下着、高性能タイツを纏い、ツムラの芍薬甘草湯 68(2.5g)、白山登山の際に山口会長に教えてもらった、味の素のアミノバイタルプロ アミノ酸 3,600mg(会長のお勧めはアミノバイタルゴールド アミノ酸 4,000mgが更に効くとの事だがお値段が張りすぎて購入を断念！)を服用し、準備を万全に集合場所へ向かいました。

扇沢バスターミナルから針ノ木峠までの道程(みちのり)は約7km、標高差1,121m、平均傾斜は9度12分。意外と緩傾斜かと思いきやこれがどうして雪溪上部からはかな

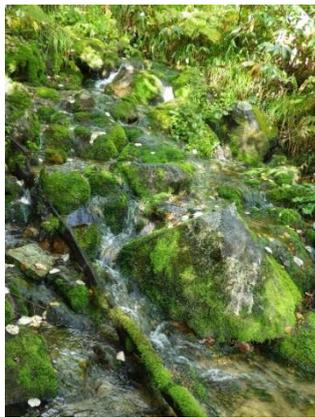
りの急勾配になります。

毎年6月の第一日曜日に開催されるに慎太郎祭には残雪が優に2～3m有り、籠川沿いのルートに登るため式典会場の大雪渓までは容易に登れます。言うまでもなく、針ノ木峠まで雪渓の直登となるため、式典終了後には大勢(100名位)の参加者が峠まで登るのですが、開山祭会場から針ノ木峠までは僅か1時間～1時間30分足らずで容易に登れるのです。

小生は25、26年度慎太郎際(開山祭)に参加させていただきましたが、残念ながら針ノ木峠までは登っていませんので今回が初めてになります。その分期待も高まります。しかし今回の夏山ルートとは慎太郎祭時のルートとは全く異なり、山腹を登ります。

ガラスの心臓とともにガラスの脚(4時間程度で痙攣をおこすことから)と呼ばれる小生にとっては中々シビアな登山になりそうです。(過去に、小秀山、白馬岳登山で両足とも痙攣になり痛い目に遭っています。)

集合予定の8時には全員が揃ったことから、挨拶の後、早速、恒例の久雄さんによる準備体操を行い出発予定時刻より25分前倒しの、8時5分に扇沢バスターミナルを出発しました。



扇沢バスターミナルから大沢小屋まではブナ、ミズナラ、カンバ類の中なだらかな道が続き、湧き水の沢を渡ります。大沢小屋で小休止、ここまで約1時間。コースタイムより30分も早い。とても順調にきています。既に小屋は閉店していました。そして針ノ木雪渓へと向かいます。(日本三大雪渓の一つ(白馬の大雪渓、劔沢の雪渓))雪渓から先は針ノ木峠までややきつい坂になります。

途中切り立った岩場(岩盤)が3箇所ほどあり鎖場になっています。(高所恐怖症の滝沢さんは怖くて、引き返そうかと思った！と言っていました。)ここを登り切ると2～3箇所の沢(水分補給が可能)を横断します。登山道沿いには季節短しと可憐に咲くリンドウ、ウサギギク、キリンソウ等沢山の種類の花々が出迎え、疲れた体や心を癒やしてくれました。流石に新・花の百名山と言うだけのことはあります。8月の最盛期には沢山の種類の花々が咲いていたことでしょう！(仕事柄！ニホンジカの食害被害が頭を過ぎります。)

ガスが湧いたり消えたり時々刻々と変化する中で、雲が上がり振り返れば爺ヶ岳、鹿島槍も見えます！これまた有り難いお出迎えです。漸く鞍部の針ノ木峠が見える斜面に到着すると目の前には最後の難所「日光のいろは坂」よりも多いであろう「つづら折り」が続いています。山腹を削り横木でザラザラと崩れ落ちる砂礫の土留めをして安全に登れるようになっており、このように登山道が整備されていなければ容易に登ることは出来ません。維持修繕等の管理に当たる山小屋関係者には常に頭が下がります。と同時に感謝です。

峠に目をやると先に着いた細萱さんが「早く上がって来い！」と言わんばかりに手を振っていました。あと10分、最後の力を振り絞り漸く峠に無事到着！時計を目にすると、12時35分！所要時間は休憩を入れて4時間30分。コースタイムが約5時間。「良かった！心配していた痙攣も無く無事着いた！」スローペースの割には上々の出来だ！(予定到着時刻は13時30分を予定！)雲が出ているが、天気も良く最高のビューです！雲海の上に富士

山、槍ヶ岳、前穂が見えます。振り返れば爺ヶ岳、鹿島槍も見えます。「xopowo!: Harasho: ハラショー！」ここまで頑張ったご褒美だ！

30分以上も前に到着している筈の教授と相澤さんがいない！細萱さんに聞くと既にリュックを置いてビールを持って針ノ木岳に向かったとのこと！



さて、急いで二人の後を追うか！否！はやる気持ちを抑えて、まず先に2日間お世話になる山小屋のご主人、百瀬堯(たかし)氏に挨拶。玄関を入り受付にいるご主人に再会と到着の挨拶を！「お待ちしていました。お疲れになったでしょう！」と労いの言葉をいただき、間髪入れずに「生ビールは如何ですか？」との問いに、ここはぐっと我慢！「素晴らしい天気ですので先に針ノ木岳に行って写真を沢山撮って来ます！」と答えると、ご主人も「それでは気をつけて山頂へ行って来てください。昨日までは天候が良くなかったですが、今日は天気が良いので良い景色が楽しめますよ！それでは戻られたら生ビールをお出しします。それからの方が生ビールも美味しいですよ！」正に正真正銘 hospitality！嬉しさが込み上げる！生ビールは帰って来てからの楽しみにして、山頂へ持って行く予定だった缶ビールを置いて、カメラと携帯電話だけ持ち13時に細萱・熊谷さんと3人で針ノ木小屋を後にし、針ノ木岳山頂へと向かいました。



針ノ木岳までの所要時間は1時間程度。手ぶらで登っているだけに足下は極めて軽やかだ！快調に山頂を目指します。暫く稜線を登ると山腹の岩石地帯の道が続きます。鎖場は有りませんが危険な箇所が何カ所か有り、落石には細心の注意を払いながら慎重に山頂を目指すこと40分。

オプションではありますが、今回の目的の一座である針ノ木岳に登頂！「やったー！何とも言えない絶景だ！」疲れも一気に吹き飛んだ！先に到着している教授、相澤さんは既に缶ビールを飲み干している。頂上から360度の大自然が広がる。見渡せば日本一の富士山をはじめ、雲海の上に聳え立つ槍ヶ岳、立山連峰、劔岳、白馬岳、杓子岳、鹿島槍、爺ヶ岳、対峙して明日ご来光を拝む蓮華岳、最高の眺めだ！眼下には立山ロープウェイ(黒部平～大観峰)、黒部ダム遊覧船のガルベも見える！至福の時間がどれほど過ぎただろうか？暫くすると久雄さんが到着し、絶景を肴に山談義に花が咲きました。

良い写真が沢山撮れたので、尽きない話は宴会に回すことにし、皆が待つ針ノ木小屋へと戻りました。

小屋に着くと全員無事到着しており、いよいよお楽しみの宴の始まりです。

天気も良く、風も無くまた、寒く無かったので外のテーブルが宴会場となりました。

乾杯は、山小屋のご主人のご配慮により生ビールでの乾杯！後に佐々木さんにお聞きするとなんと！「我々の為に」生ビールを取置きしていただいたとのことです。(来週3～4、

10～12日の週末には大勢のお客さんが来られるのに！)これは、何とも申し訳ない訳でまたまた感謝です。

前回の第21回現地研修会「霊峰白山と氷見を巡る旅(山と海は友達)」の際に珍しく飲みきれなかった日本酒、ワイン、つまみ類が所狭しとテーブルに並べられました。「天気良し、ビュー&ロケーション良し、生ビール旨し！良きメンバーに感謝！全て最高！！」弥が上にも盛り上がりません。夕食の17時30分まで山談義や今後のイベント等の話で盛り上がり楽しい宴は続きました。最後には齊藤さんが安曇節まで披露してくれました。



夕食前にはご主人から針ノ木小屋から撮影したパノラマ写真とともに眼前に聳える山々の説明をしていただきました。

夕食では、またまた生ビールをご配慮頂き、大変美味しく頂きました。

さて、今回、お世話になる針ノ木小屋・大沢小屋のご主人：百瀬堯(たかし)氏の祖父である百瀬慎太郎(しんたろう)氏についてここで少し説明させていただきます。

- ・百瀬慎太郎は明治25年、信州北安曇郡大町の対山館に生まれる。
- ・明治40年15歳ではじめて白馬岳に登る。小島鳥水の「日本山水論」に傾倒、山岳熱に目覚める。
- ・18歳で日本山岳会に入会。会員番号215
- ・20歳で若山牧水門下となり、生涯にわたり800首以上の和歌を詠む。

「山想えば人恋し 人想えば山恋し」は余りにも有名で、北アルプス開拓のパイオニアである百瀬慎太郎を讃えの登山口にも大きな木製の看板(関西電力株式会社、中信森林管理署が設置)があり、慎太郎祭にはこの歌の懸垂幕が式典開場に掲げられます。

・日本人初の山案内人組合を創設し、案内人の育成・指導に尽力。積雪期の立山・針ノ木越えなど、山岳史に残る活動を続ける。大正14年に大沢小屋を昭和5年には針ノ木小屋を建設。

・石川欣一、茨木猪之吉、山田珠樹、伊藤孝一、楨有恒各氏ほか多くの岳人、文人、画家、学者諸氏との親交を深めた。

・昭和24年、食道癌のため死去(享年58歳)

百瀬慎太郎の没年の5年後に有志らにより、大沢小屋入り口横の岩にレリーフが設置された。これを機に慎太郎を偲び安全登山を祈る慎太郎祭(針ノ木岳開山祭)が毎年6月の第一日曜日に開催される。

※針ノ木岳開山祭は百瀬慎太郎に敬意を表し針ノ木岳開山祭とは言わず、第〇〇回針ノ木岳慎太郎祭と呼び、今年6月7日(日)には第58回針ノ木岳慎太郎祭が針ノ木大雪溪において盛大に挙行されました。

(日本アルプス針ノ木岳・蓮華岳のパンフレットから引用、一部小生が追加)

夕食後は予ねてからお願いしてありましたご主人の百瀬堯氏に「針ノ木峠、針ノ木小屋」

についての勉強会を開催しました。

勉強会では一般の宿泊客も加わり、ご主人の説明の後、質問形式で行われました。

・針ノ木峠 2,540m(標柱には 2,536mと表示?)の歴史について

飛騨山脈の峠の中で最も標高が高く(日本では赤石山脈の三伏(さんぷく)峠(2,580m))に次ぎ、古くから信濃と越中を結ぶ交通路の要衝であったこと。

1,584年(天正12年)越中の領主佐々成政が豊臣秀吉に対抗するため徳川家康との同盟を期待して、雪の峠越え(ささら越え)をしたこと。

・佐々成政が隠したとされる軍資金(金銀)100万両を探すため昭和の後半までに金属探知機を使用して埋蔵金を探していた人が何人もいたこと。

・ご主人の母が慎太郎の長女で慎太郎の孫にあたり、山小屋には昭和40年「ぼっか」から入り山小屋に携わって来たこと。昭和39年にヘリでの物資輸送が行われるようになったが以前は、富山県側から牛に荷をつけて運搬していたこと。

・燃料がプロパンガスになる前は、薪を使用しており、富山営林署からダケカンバ等の風倒木、雪害木等を中心に払い下げを受けていたこと。

・当時、学校登山の際には野菜などの生ものは貴重で学生が持って来たこと。

・学生(松本県ヶ丘高校の山岳部)がアルバイトに来ていたこと。

・登山道維持補修、整備についての苦労話等について。

など幅広い意見交換や質問が出され1時15分にわたり大変有意義な勉強会となりました。山小屋のご労苦等大変勉強になりました。百瀬さん貴重な時間をいただき良いお話を有り難うございました。

その後は、玄関脇の休憩所で消灯までささやかな宴が行われました。

これまたオプションになりますが、明日早朝、目的である2座目の蓮華岳に登りご来光を拝むため、山小屋を4時30分に出発することになりました。

玄関脇のホワイトボードには明日の「日の出」は5時35分?天気予報は晴れと書かれています。明日のご来光への期待は否応なしに高まります。

「どうかご来光が見られますように…!」と祈りながらしっかり耳栓をして9時過ぎには就寝となりました。(2時に目が覚めたので外に出てみると風も無く丸い月が出、綺麗な星空。暗い中にも聳える山々が見えました。これはご来光が期待できそうです!…でもちょっと待てよ! 妙に暖かすぎないかな…?)

2日目

4時近くなると皆ざわめき出しました。起床し、準備を整えて、さあ!ご来光を見るため蓮華岳山頂へ向けて出発です。耳栓のお陰で十分な睡眠が確保されているので寝不足はありませんし、宴のアルコールの影響も全くありません。

時刻は予定通り4時30分です。山頂までのコースタイムは1時間程度。外はまだ暗くヘッドライトを着けて山頂目指して歩きます。足下が暗いので登山道を確認しながら一步一步確実に!



稜線の険しい道を登りきると後は緩やかな道が山頂まで続きます。辺りはまだ暗くヘッドライトの明かりだけが頼りです。風も無くそれ程寒くありません。前日同様、持ち物はカメラと携帯電話だけなので足取りも軽く42分で到着！本日山頂一番乗り！思った以上に順調に山頂に着きました。山頂西側の若一王子神社の奥宮は最近お祭りが行われた様子でそよご、メ縄、おんべが残っていました。石でできた祠に手を合わせ「昨日の天気と絶景を有り難うございました。どうかこれからご来光が拝めます様に！また、全員無事下山出来ますように！」とお参りをし、山頂で皆を待ちます。程なくして皆が次々に来ました。皆でご来光を待ちますが、どうも雲が厚い…兎にも角にも厚すぎる。嫌な予感が…！風も出始めました。雲が下から湧いてきます。これではご来光は期待薄です。間もなく日の出の時間になりますが、太陽は残念ながら見えません。皆の期待を裏切り、とうとう日の出の時刻を迎えてしまいました。「折角登ったのに、ちょっと残念だな！」落胆の声が聞こえますが、一方「昨日あれだけ天気が良く楽しめたのだから、余り欲をかいちゃだめだよ！」との声も！



残念ながらご来光をバックに記念写真は撮れませんでした。蓮華岳山頂で12名全員揃って写真を撮影し小屋へ戻ることにしました。「それにしても残念だなあ〜！」小屋には遅くとも7時までには戻って朝食、8時に下山とのことでしたので、皆諦めて小屋へ戻って行きました。

なんとか太陽を見たいとの思いで細萱さんと6時過ぎまで粘って山頂にいることにしました。「7時までに小屋に戻るには下りは40分もあれば大丈夫！もう少し待ってみよう！」昨日、種池山荘から来て針ノ木小屋に泊まったお客さんも同様に太陽を待っていました。皆が下り始めて7〜8分位経ったでしょうか？時刻は6時5分前、東の空が明るくなって来てはいるのですが…！中々太陽は顔を出しません。何ともじれったい！風が出て手も悴んで



きました。寒さを感じます。それでも我慢して待つこと3分！なんと言うことでしょうか！待望の太陽が漸く雲の切れ間から見え始めました。時刻は5時58分！我らの粘り勝ちです。シャッターチャンスは僅か2〜3分の間でした。カメラが良くないので決して良い写真とは言えませんがそれでも何枚か写真を撮ることが出来ました。

帰る際も若一王子神社の奥宮の祠に手を合わせ「寒い中、待った甲斐がありご来光？(日の出時刻を20分も過ぎているのでご来光とは言わないかな?)が拝めました。有り難うございました！全員無事下山出来ますように！」とお参りをし山頂を後にしました。45分程で山小屋に到着、ご主人にご来光を見られたことを報告し、朝食を済ませ、ご主人と記念撮影をして、8時過ぎに針ノ木小屋を後にしました。ご主人2日間大変お世話になりました。

下山は特に気をつけなければなりません。登山では下山中の事故が8割近くを占めることから足元をしっかりと見据え慎重な下山となりました。思いの外下りは軽やかです。登りはあんなにキツかったのになあ！途中大勢の登山者に「こんにちは！あと少しで峠だよ。頑張

ってね！」と声を掛けながら下ります。今日は少なくとも100名以上は登っているようです。勿論、日帰りの方々もみえるのですが…針ノ木小屋に宿泊されるのかな？種池山荘まで行くのかな？などと思いながら、何度か休憩を取りながらゆっくりの下山となりました。扇沢バスターミナルに到着したのは11時30分。3時間30分かけての下山となりました。

相澤さんは仕事のため、一足先に下山となりましたが後に聞いたところ僅か2時間程で下山されたそうです。いやはや…！ 早すぎる！スピード違反で赤切符だ！

その後全員でエスニックで美味しい「黒部ダムカレー」(ご飯はアーチ式のダム、カレーは湖、カツは黒部ダムの遊覧船ガルベをイメージしています。)を食べてから解散となりました。皆さん2日間早朝からお疲れ様でした。特に遠路から参加された齊藤さんお疲れ様でした。

山岳友の会の歴史にまた、思い出深い新たな1ページが刻まれました。

勿論、入会3年目の小生にも忘れられない思い出になったことは言うまでもありません。おしまい！

レポーター:ペンネーム:瀬祭036(DASSAI 036)

(瀬祭(だっさい)は山口県岩国市にある「旭酒造株式会社」が造る日本酒の名称(磨き(精米歩合)2割3分))

第 23 回現地研修報告1～「秋の味覚を堪能する会」に参加して～

10月17日(土)当日、朝5時に木曾福島から紅葉の境峠を經由して沢渡の駐車場に6時20分頃到着した。ここでバスに乗り換えて大正池で下車、遊歩道をしばらく歩いて、本日ランチでお世話になる帝国ホテルに荷物を預け再びウォーキングを続け、田代池附近で、木々に霜が付いて、光線のバランスも良く、写真撮影に集中した。それから、田代橋まで来ると、徐々に人が多くなって来た。ウェストン碑、カップ橋、バスターミナル経由で帝国ホテルに戻った。程よい食前の運動にもなった。帝国ホテルでのランチは、友の会として2回目で、レストランのアルペンローゼで、メニューはメインが信州産地卵のオムライスとハッシュドビーフ、デザートはクラシック風バニラアイスとコーヒー。特にハッシュドビーフの味は格別で、またスタッフの接客態度も良く、品格が感じられた楽しいランチタイムだった。その後は、2つ目の“秋の味覚を堪能する”ため清掃活動をしながら、明神のステーションへと向かった。途中で拾い集めたゴミ等は少なく、早速全員で準備に掛かった。

最初は外のテーブルではじめたものの、標高1,500m故に外気温が下がり、それからは囲炉裏の周囲に全員集合、そのうち、本日のメインとも言える鍋が登場、きのこの秋の味覚が盛りだくさんを満喫することが出来た。

翌日10月18日(日)は早朝、附近の林道を歩きながら小鳥のさえずりの中で、相澤会員による“上高地の国有林”についての講義を聴いた。

今回の現地研修会は、味覚と好天に恵まれた大変有意義な2日間であったと思います。

島村 芳太郎

第 23 回現地研修報告 2～上高地ステーション夜会～



登山大好き、環境大好き、動植物大好き、シダ大好き、昨年 12 月入会の竹重聡です。山岳友の会行事に初めて参加しました。よろしくお願ひいたします。

帝国ホテル参加者 19 名、バスターミナルまでは一緒でしたが、はぐれてしまい一人で上高地 ST までの行脚となり、ゴミ拾いをしながら遅れてはまずいと一生懸命急いだあまり一番で到着してしまいました。そして車で先行の先輩会員と丸太テーブルでポチポチと飲み始めた。緊張しちゃたんだろうか。寒かったが建物の前の雰囲気がとても良くて、おいしい日本酒と焼酎を空きっ腹に飲んだからか。この大好きなアルコールの胃袋先行投資がのちに体調不良を招き貧血となって、昼過ぎ「夜過ぎ」までの楽しい宴会にフルに参加できないお粗末な夜となってしまった。初めて参加したのにもかかわらず皆さんのいろいろな話も聞けないで、貴重な夜の体験を自らアウトにしまって(未知との遭遇 2)、おいしかった鍋料理も焼き秋刀魚も思い切り口に入らず、また同部屋の皆さんにも先に寝込んでしまってスマセンでした。



とはいえ右岸でゴミを拾っているとき、あのいつも洪水で研究路が水浸しになるケショウヤナギの実生が多く見受けられる場所でのこと。ちょっと変な不審な大きなナイロン袋を川原で注意しながら拾うと、なんと中身は手付かずのカップラーメン 5 個、封が切られていない商品袋の中に、コップまで入っていた(未知との遭遇 1)。キョウ日、このような食べ物は手付かずとはいえ危ない、考えすぎかもしれないが。夕方でもあり置き忘れたひとと 4 人のことが、腹減ってんだらうなと気になった。

翌朝 5 時半から、車道を奥へ有志 10 人で樹木観察、講師から説明を受け、戴いた資料の奥深さにとても勉強になった。宿舎を出たときから深山から伝わる乾いた冷気で眠気がサーッと引いた。目の前には赤紫明神岳のモルゲンロートがずっと歓迎してくれていた。早起きの素晴らしさをあらためて痛感した。帰路ではたまたまハルニレに着生していたオシャクジデンド「上高地では自然観察研究路からなかなか出会えない」に会い、皆さんに見て頂けたのが幸運であった(未知との遭遇 3)。



今後も機会があれば数多く、会の行事に参加したいと思っています。今回これまでにない上高地を体験させていただいて感謝です。皆様ありがとうございました。

竹重 聡

徳本峠の道普請 実施報告

10月31日と11月1日「徳本峠の道普請」に出掛けました。島々谷を登り翌朝道普請で下りました。

県山岳センターの杉田さんからは、「登山道のグレーディング」のお話を聞きました。60歳以上の登山は「注意と日々の鍛錬」が必要です。

快晴の翌朝はいよいよ「道普請」です。

最上部の今年復旧の橋をはずして雪崩被害に対処しました。

念願の「岩魚留小屋」の屋根掃除。なんと SA 並みの腐葉土と落ち葉で 20cm はあろうかという落ち葉の大掃除です。宗亭さんと美化財団の若手桜井さんが奮闘。一時間ほど懸かって見事に完了。信大工学部の梅干野先生に十分報告出来る出来映えです。

道治しは迂回路を解消の難工事です。水の流れを調整し、倒木を片付けて、石積みして完成です。更に木道や橋の落ち葉を清掃して三時に安曇支所で解散しました。

今回、念願の「岩魚留小屋の屋根掃除」が出来て本当に充実した「道普請」でした。

小林 久雄

編集後記

あれ?これ?としているうちに「年の瀬」になっています。反省の白山登山や御来光の針ノ木峠小屋にキッズ・キャンプ、更には帝国Hのランチと大人キャンプなどなど....。残すイベントは「忘年会」と「乗鞍の集い」です。

来季は6年目を迎えます。皆様のますますのご協力をお願いします。Q



信州大学山岳友の会会報 第19号
発行日：2015年11月12日
発行：信州大学山岳友の会
〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1
信州大学山岳友の会事務局
FAX：0263-37-2438
E-mail：suims@shinshu-u.ac.jp